

公共施設について考えよう ～No.2～

～前回までのおさらい～（前月号は町ホームページでも御覧頂けます）

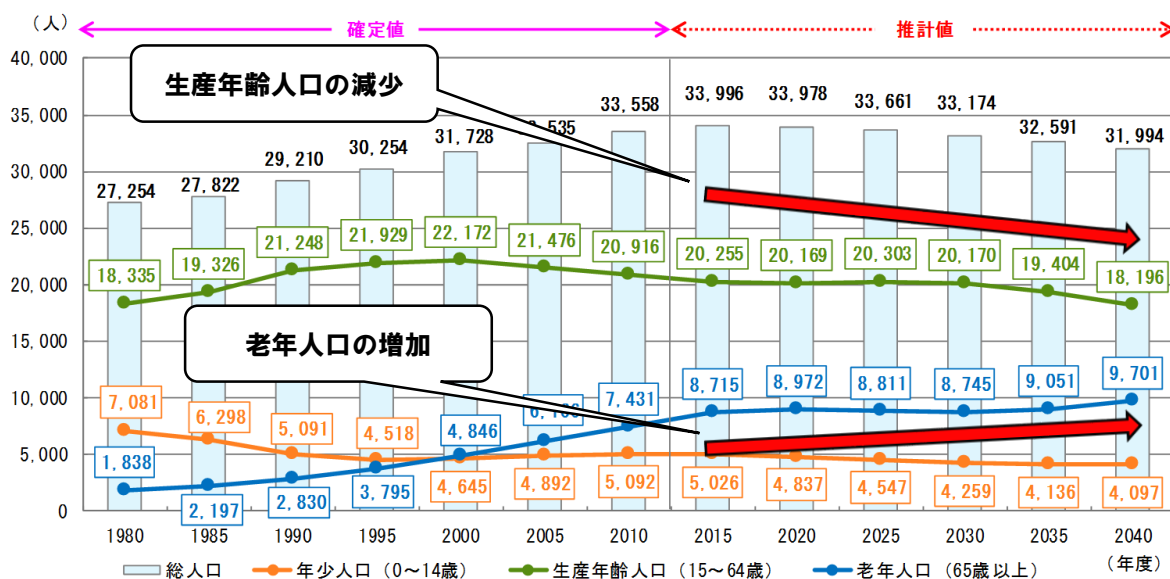
少子高齢化社会を迎えた今、行政は大きな転換期を迎えており、公共サービスや公共施設のあり方についての見直しが必要です。また、本町では建築後30年以上経過（老朽化）した施設が全体の約8割を占めており、今後、老朽化した公共施設が一斉に更新の時期を迎えるにあたり、どう利用し、更新していくと良いかを考えていく必要があります。

『生産年齢人口の減少と税収の確保』

➡ 働く世代の減少により社会を支える人が少なくなり、税収の確保が難しい状況となる予想。公共施設の維持や更新に使えるお金の確保はさらに難しく。

本町は今後、25年間で生産年齢人口は約2,000人減少する一方で、65歳以上の人口は約1,000人増加する見込みです。そのため社会を支える人が減少し、子育てや高齢者福祉関係の施策のニーズが今後も高まることが予想され、それらに係るお金を確保していく必要があります。公共施設の維持や建替えに関連する費用を捻出することはますます難しい状況となります。

扶桑町の人口の推移



出典：扶桑町公共施設白書 ※総人口は不詳を含むため、各人口の合計と一致しない場合があります。

問い合わせ

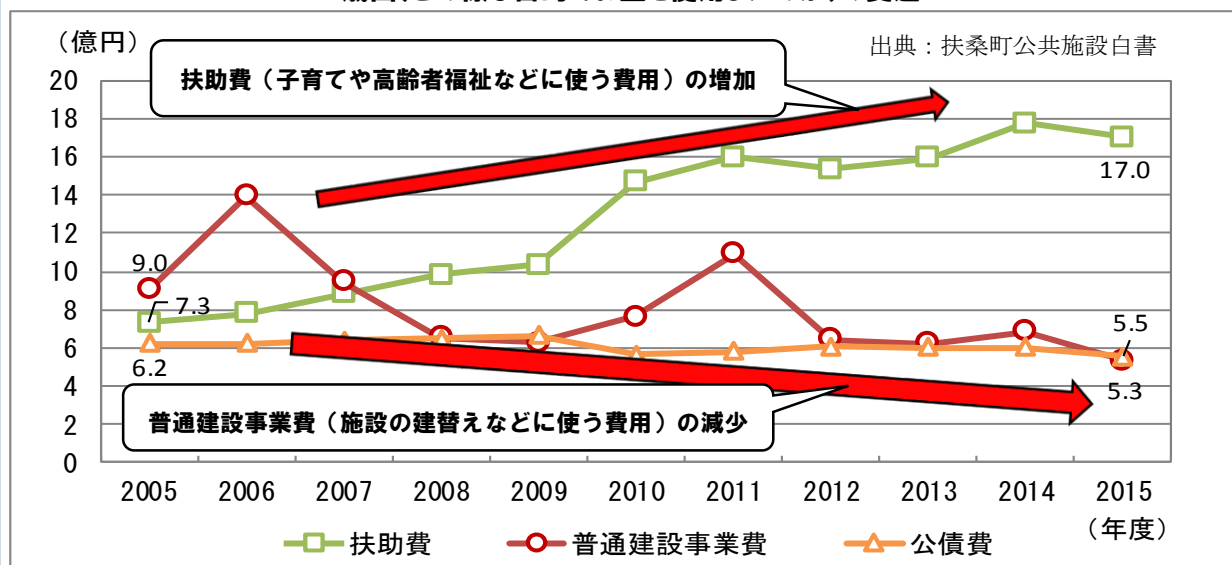
扶桑町 総務課 総務グループ

電話 0587-93-1111（内線214）

『扶助費は増加、普通建設事業費は減少傾向』

生産年齢人口（働いて税金を納める人）が減少し税収の増加が見込めない中で、子育てや高齢者福祉関連のお金「扶助費」は年々増加し、今後も更なる充実が求められます。一方、公共施設の建替えや改修工事に使えるお金「普通建設事業費」は減少しています。そのため、施設の更新は単純な建替えや統合ではなく本当に必要な公共サービスや施設のサイズを考慮した上で建設すること、運営方法のあり方について見直しが必要です。

歳出(どの様な目的でお金を使用したのか)の変遷

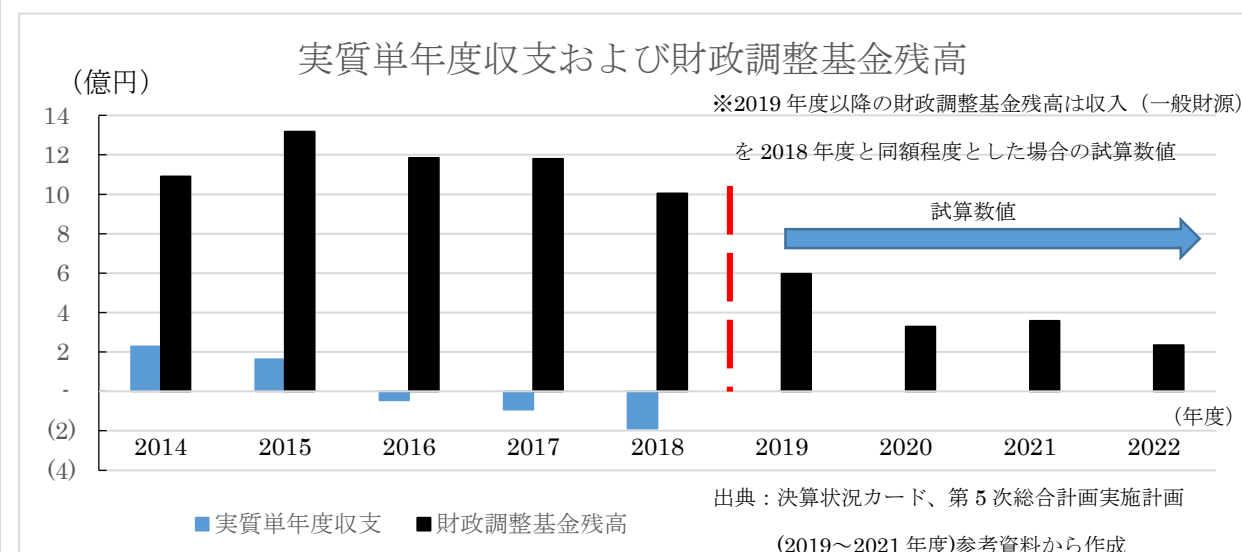


『税金の使い道の見直しが必要』

※財政調整基金…急な出費や収入が落ち込んだ時に

備える貯金

2016年度から3年連続で実質単年度収支は赤字で、財政調整基金（貯金）の取崩しによって穴埋めしてきたことを示しています。財政調整基金（貯金）は今後減少していく予想であり、税金の使い道の見直しが必要です。



【次回予告】 次回号では、公共施設の運営や費用について見ていきましょう。

【令和元年7月発行】